

福祉・子育て予算が低下しないよう来年度予算に反映を



見上 政子 議員

質問 国の社会保障制度改革プログラム法案は国民に負担増を強いて給付を削減し、介護保険に關しては要支援1、2を廃止し市町村に丸投げするとしている。デイサービスと訪問介護のサービ
スに不安がある。来年度には今ままでおり負担を増やすことなくサービスを提供できる予算を組むことが求められるが、町の考えは。

生活保護基準の見直しに伴い子育て関連の保育料、就学援助、国民健康保険関連の検診料、医療費一部負担減免制度など影響が出ると考えるが、弱者支援のために負担を
かけないような対策の考えは。

答弁 平成26年度の軽度者向けのサービスは、今までと変更がないことから、デイサービス、訪問介護など介護サービス
を低下させることのないよう予算措置に努める。平成27年度以降については、国の動向を注視し、
第6期八峰町介護保険事業計画（平成27、29年度）において検討する。就学援助は対象範囲が狭まる
ことのないよう適切な措置を講じ、保育料については従前どおり判断して
いきたいと思っており、今回の保護基準引下げによる、町の受給者へは影
響が出ないものと考えている。

質問 新たに示された津波ハザードマップによると真瀬川から浜田地域までワインレッドとレッドゾーンになって示されている。立石、茂浦、中
浜、浜田地区の集落はほとんどが水没してしまうのではないかと思うが、
町はどのように判断しているのか。



災害が起き、国道101号が寸断された場合、八森山麓線（ビューシーライン）は重要になる

答弁 県の「地震被害想定調査」に係る津波関連データを基に、「津波ハザードマップ」を作成
中で、町としても県の防災計画と整合性を図りながら、地域防災計画を見
直すことにしており、この計画に基づいた「防災マニュアル」を作成し全
戸配布したいと考えている。

峰浜培養・直営シイタケ栽培の現状と今後の見通しは



鈴木 一彦 議員

質問 峰浜培養は今年3月から新菌を導入して再稼働し、5月から収穫・販売をしているが、現在の峰浜培養・直営シイタケ栽培の経営状況と今後の見通しは。

答弁 菌床シイタケは8農家で22棟、峰浜培養が10棟を栽培し、10月末の実績でA品・B品を合わせた秀品率は約7割と品質高い品種で収量も比較的安定している。100gパックの平均単価は88・1円で販売総額は2億4400万円強。約3割を占めるC品や規格外

品をいかに少なくし、品質向上につなげていくかが今後の課題である。経営状況はシイタケ販売部門が初年度ということ、設備投資や経費の掛かり増しで赤字、ホダ製造販売部門は町内農家への供給と県外への販売強化により収益増加で黒字、会社全体としては黒字決算の見込みである。

再質問 町外出荷のホダ数の今後の計画、壊れている所がある直営シイタケハウスの補修は。

答弁（農林振興課長） 町外販売は今のところ28万8千本の計画である。ハウスの屋根等の修理は何箇所か確認している。燃料など経費節減からも早急に対応するよう峰浜培養に話をする。

再質問 指導員の任期は3月までだがその後は、多額の資金投入しているこの事業の取り組みについての考えは。

答弁 指導員については生産者などの意向も聞いてみる。JAやまもと全体で米に次ぐ生産量は菌床シイタケであり、雇用効果も大きく、早く正常な姿にすべく精一杯頑張っていく。

生薬栽培の今後の計画は

質問 生薬栽培事業で試験栽培結果と次年度以降の計画は。

答弁 今年度から町の農園で試験栽培を開始、カミツレ、ウイキョウ、トウキ、センブリ、キキョウ、セネガ、オタネニンジン、カンゾウの8種である。収穫までの期間が1、5年位で、栽培管理、町の気候風土に適するか全品目検証を必要と



試験栽培中の生薬の一つであるカミツレ

する。来年度はセンキウウ、ハンゲも計画し、収穫した種子を基に面積を増やして種子を確保し、早い機会に農家の栽培につなげたい。

再質問 計画事業では初年度9町5反歩位、最終20町歩位の面積予定なのか。

答弁 乾燥・調整施設等については。

答弁 試験栽培しながらの実証段階なので、買取り価格等含め話を詰めて慎重に考えていきたい。

答弁（農林振興課長） カンゾウが一番面積を要し、土地条件と農家の意欲があればいくらかでも増やせる。